

設問

[問い 1]

事例Ⅰでは、CLのこれまでの経験について質問をすることで語られた仕事においてコミュニケーションが大事というCLの自己概念に好意的関心を示すことなく、適性や経験も必要というCCtのものの見方に基づき問題解決を図るような応答をしている。このため、CLとの信頼関係も築けていないと思われる。一方、事例ⅡではCLのワクワクする、文具が好きといった感情に好意的関心を示し、焦点を当てて問いかけることにより、CLの自己探索が始まっている。そして、コミュニケーションより大事なことに気づきを与え、さらに問いかけることでCLの自己概念に変容が生まれている。

[問い 2]

事例Ⅰの CCt11 (相応しい・相応しくない)

理由：仕事ではコミュニケーションが大事というCLの考えを具体性のないことと否定的に応答し、CCtの意見を一方的に提案しており、その後CLの納得も得られていないため。

事例Ⅱの CCt11 (相応しい・相応しくない)

理由：文具が好きという仕事へのモチベーションがコミュニケーションよりも大事だとCLに問いかけている。それによりCLの自問自答が始まり、その結果CLに新たな気づきも生まれているため。

[問い 3]

CLは今まで「時間をかけて」、「コミュニケーション」を大切にしながら仕事をしてきたが、オンラインになり苦手意識を持ち、周りから「ぎこちない」と指摘され自信をなくして自己効力感が低下していると見受けられる。また、これまでのようにフェイストウフェイスではなくオンラインで周囲ともコミュニケーションをとって連携しなければならないことから不安を抱えている。さらに仕事のモチベーションが何であるかを気づけていなかったことから、自己理解も不足していると思われる。

[問い 4]

まずは、傾聴する姿勢を続け、信頼関係の構築に努めていく。そして、これまでの仕事についてお話を伺い、CLの仕事に対する思いや成功体験などについて振り返ってもらう。それにより、自己効力感を高めてもらい、CL自身の行動変容を促す。また、コミュニケーションより大事だと思うことの優先順位について整理することで、自己理解を深めてもらう。そのうえで、CLが新プロジェクトをやり遂げるためには何が必要で、何が出来るかを一緒に考える。以上により、それに向けた具体的な行動計画を立案し、CLが前向きに新しいプロジェクトに取り組んでいけるように支援していく。

設問

〔問い1〕

事例ⅠはCLの「人間関係を何よりも重視」との感情に寄り添うことなく、CCとのものの見方で仕事には「適性や経験も必要」と決めた上での回答をしている。「具体性のない」「使命を、なり果せることを前提に決断」とCCが主導で問題解決しようとしている点、信頼関係が築けていない。一方、事例ⅡではCLの「好きな文具の可能性を広げたい」との思いに共感的関心をもちて答えている。CLⅡではただ付けていた仕事に対するモチベーションに対して気づき、新しいプロジェクトで悩んでいた長持ちに自己探索が始まり、内省が促される。

〔問い2〕

事例ⅠのCCt11 (相応しい・相応しくない)

理由：CLの気持ちに寄り添うことなく、「具体性のないこと」「プロジェクトの使命」とCCとのものの見方や経験などから決断したのではと助言している。その為、信頼関係を築けていないため。

事例ⅡのCCt11 (相応しい・相応しくない)

理由：CLの「文具が好きだ」という気持ちに焦点をあてる回答をしている。そして仕事のモチベーションに対して「コミュニケーションが何か大事なのか? CLの中で自由回答があまり内省が促しているため。

〔問い3〕

CLは今まで「時間をかけて」「コミュニケーションを大切に仕事をしてきたことから、オンラインで苦手で周りから「まじない」との指摘により自信をなくして、自己効力感が低下している点、新しいプロジェクトに対してやりたという長持ちはあるもののコミュニケーションが大事との思いから不安を抱えており、仕事のモチベーションが何であるかを定めて、自己理解が不足していると気付かされる。以上が現時点でのCLの問題点だと思われる。

〔問い4〕

新しいプロジェクトに対して不安に思っている思いに寄り添いつつ、傾聴を続け信頼関係を築いていく。その上でCLのこれまでの仕事を相対化していただき、これまでの仕事に対する思いや成功体験を思い出し自己効力感を高めさせる。そして新しいプロジェクトに対して「ワクワク」というCLの気持ちに対しては文具が好きだという長持ちに対して、自分の中でコミュニケーションが何か大事なのかを改めて一緒に考え自己理解を深めさせる。CLが今後のお仕事に対して前向きな気持ちでとくめるよう支援する。



設問

問い 1

事例Ⅰでは、CLのこれまでの経歴について質問をすることで語られた仕事においてコミュニケーションが大事というCLの自己概念に好意的関心を示すこととなく、適性や経験も必要というCC+のものの見方に基づき問題解決をはかるような応答をしている。一方、事例ⅡではCLのワクワクする、文具が好きといった感情に好意的関心を示し、焦点を当てて問いかけることにより、CLの自己探索が始まっており、コミュニケーションより仕事に気づきを与えている。そして更に傾聴を続けることで新たな気づきも生まれている。

問い 2

事例Ⅰの CCt11

(相応しい) (相応しくない)

理由 仕事ではコミュニケーションが大事というCLの自己概念を具体性の乏しさと否定的に回答し、CC+の意見を一方的に提議しており、その後CLの内得も得られていないから。

事例Ⅱの CCt11

(相応しい) (相応しくない)

理由 文具が好きという仕事へのモチベーションがコミュニケーションよりも大事と気づいてCLに更に問いかけることによりCLの内省が促されてCLに新たな気づきも生まれているから。

問い 3

CLは新商品開発のプロジェクトをまとめよう打診を受けている。しかしこれまでより高い価格帯の商品をとて短い期間で開発しなければならず「お客様が満足する商品が出来るか不安を感じている、これから新プロジェクトに対する理解不足が何える。更にこれまでのようにフェイストゥフェイスではなくオンラインで周囲ともコミュニケーションをとて連携しなければならいことから自信をなくしているが、この点で自己理解不足もあると思われる。

問い 4

まず新商品開発のプロジェクトについて話を伺い、そのプロジェクトの内容について整理をしてもらう。またそのプロジェクトについてのCLの思いやこれまでの仕事についてもお話を伺い、CLの仕事に対する価値感や強みなどについて改めて振り返ってもらい整理をしてもらう。その上でCLが新プロジェクトをやり遂げるためには何か必要なのかについて一緒に考え、それに向けて行動計画を立て、CLが前向きに行動していけるよう支援していく。